



## 現場にフィット“ちょうどいい自動化”で工数削減 技術者2名に裏側をインタビュー

～ 信頼が部署を超えてチーム力強化に繋がる ～

ハイウィン株式会社（本社：兵庫県神戸市西区、代表取締役：林育志）では今年、自動包装機を導入、9月1日以降に出荷する製品はすべて新しい包装形態に変更しました。包装機の導入により、現場では工数削減、省力化も達成。産業用ロボット導入による自動化とはまた違い、現場にフィットした自動化で、より働きやすい職場環境の実現に繋がりました。本ニュースレターでは、導入から運用までを支えた2名の担当者のインタビューを紹介します。

### 《プロフィール紹介》



2021年入社  
生産部製造課  
リーダー  
**谷内 智行**  
年齢：35歳／資格：電気工事士／出身地：岡山県



2024年入社  
営業技術部メカトロ課  
リーダー  
**宮崎 宏二**  
年齢：41歳／資格：技術士／出身地：兵庫県

### 自動包装機の導入は“ちょうどいい自動化”で工数削減を実現

――まずは自動包装機の導入に至ったきっかけを教えてください。

**谷内**：自動包装機の導入のきっかけは、グローバル本社である HIWIN Technologies Corp. から「自動化を進めていくように」という後押しがあったためです。

**宮崎**：自動包装機は二つ折りフィルムの中に当社製品を挿入し、三方を熱で溶着して袋詰めします。次の工程のシュリンク炉で、熱を加えることでフィルムが製品に沿って収縮し、空気が抜けて製品の形に沿った包装が完成となります。



導入前／中央のブロックを固定するよう手で包装



導入後／製品の形に沿うようにフィルムを収縮させて包装

メモ：導入から運用まで

まずは社内で工数の分析を実施、優先順位を付けた結果、包装工程が最も優先度が高いと判断され導入に至ったとのこと。2025年9月1日以降出荷される製品は新しい包装に切り替わり、現時点ではリニアガイドウェイの包装を、ほぼ自動包装機に切り替えています。



自動包装機(奥)とシュリンク炉(手前)の2台を導入

## インタビュー：導入までの舞台裏

――導入までと導入後で、大変だった事はなんですか？



**宮崎**：今回の自動包装機導入では設備関連を担当しました。

当社のリニアガイドウェイは最小 100mm から 4000mm までサイズが幅広く、それに対応できる機械を探すのに苦労しました。自動包装機は多くの場合量産品に対応していて、同じ製品を大量に包装しない当社に合った機械を探すのは大変でした。県内に会社を構える機械メーカーの標準機だけが希望仕様に合致しました。複数回の立ち合いや検証を重ねて、予算内で導入が完了しました。今後は、包装された製品を次の工程まで、当社の直交ロボットを活用し、自動で搬送できるようにする予定です。

**谷内**：生産部担当として、作業時の使いやすさ運用のしやすさを重視し、マニュアルの作成や作業の指導、導入後の機械の調整などを一貫して担当しました。



実際に製品を包装できるように機械を調整することが特に大変で、袋が収縮する時に空気が抜けず破裂した事もあります。現在も、機械の設定を工夫しながら運用しています。

**宮崎**：現場の人が気持ちよく使用できる事が何より重要です。谷内さんが担当した、現場が問題なく運用できるように準備や調整をすることが一番大変です。

――現場で働く皆さんから「いいね！」や「助かる」といった反響はありましたか？

**谷内**：「そんなに堂々と言われたことはないですけど……。」

自動包装機導入後、現場は“新しい時代が来た”という雰囲気。包装の手軽さとスピードから手作業での包装には戻れず、「なるべく使わないで



ねと伝えた時も、なるべく使っていた」とのこと。

現場の皆さんの役に立ち、工数削減に繋がった様子がうかがえます。

## インタビュー：部署の垣根を超えたコミュニケーション

――お互いの印象を教えてください。

**谷内**：宮崎さんは経験が豊富で、相談しやすい雰囲気があります。働く部署が違うけれど、部署同士の



メーカー担当者と共に自動包装機の調整を行っている様子

つながりにも貢献していると思います。

**宮崎**：谷内さんはちょっと変わっているという印象ですが、それが良い意味

で個性となっています。一緒に仕事をする上でとても仕事がしやすかったです。

インタビューに同席していた社員からは宮崎氏について、「経験も豊富で設備導入の際、とても安心感がありました。導入された機械によって生産部の効率が大きく向上しており、同じ現場で働く身として非常にありがたく感じています。」とのこと。

谷内氏の印象は「変わってるなーという印象。働く部署は違いますが、仕事への取り組み方がとても素晴らしいです。周囲を巻き込む力と熱意があり、色々と考えて行動している印象があります。

彼の意見はしっかり聞くようにしています。」との返答がありました。

従業員同士の顔が見えるやり取りができることも、良い関係性を築く一因となっているようです。

### まとめ：信頼が部署を超えたチームを結成

部署の垣根を越えて協力し合いながら進められた自動包装機の導入。谷内氏への「ちょっと変わってる」という言葉には、お互いをよく知っているからこそ生まれる信頼が感じられました。インタビュー内で宮崎氏が語っていた「大企業に比べて人数の規模が小さいからこそ、顔を合わせて仕事ができる」。これが部署を超えた繋がりをより強くしているようです。こうした部署を超えた理解

と協力体制が今後も継続され、さらにそれぞれの経験と知恵を生かし、より働きやすい環境となるようこれからも努めてまいります。



### 経歴などの紹介



#### 宮崎 宏二 (みやざき こうじ)

- 兵庫県神戸市出身 学生時代は機械工学を専攻し、生産設備の技術職を経てこれまでの経験を強みに活躍中。日々現場目線で課題解決に取り組んでいる。
- 趣味はマウンテンバイクのダウンヒル、ゲーム（特にモンスターハンター）、バスケット、スポーツ観戦とアクティブで多彩な趣味を楽しんでいる。



#### 谷内 智行 (たにうち ともゆき)

- 岡山県出身 津山工業高等専門学校を卒業後、兵庫県神戸市にある食品製造工場で生産ラインの保全業務を担当する。徐々にモーターや制御盤など機械内部の構造に興味をもち、よりそういった仕事に携わるため転職を決意。入社後は生産技術を担当し、自動包装機導入では運用面を担当している。
- 趣味はお酒を嗜むことで、高知の親戚から送ってもらう地酒も楽しんでいる。ゲーム、アニメ、アクアリウム（熱帯魚）や、子どもとの時間も大切にしている。

### 本件に関するお問合せ先

ハイウイン株式会社 マーケティング企画課 e-mail: kikaku@hiwin.co.jp TEL: 078-997-8827 (代表)